

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

辻小学校
「学力向上実行プラン」

主体的・対話的な学びの中での論理的思考力の育成
 ー授業で育てる、根拠を明確にした説明力とメタ認知能力ー
 ①思考力を伸ばす、書く活動の充実
 ②伝え合い、学び合う、話す(話し合う)活動の充実

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算などの基礎的・基本的な学習については、ある程度の習得が図られている。 ○国語辞典を活用して知識の習得にいかしている児童が多い。 ●進んで読書をしている児童の割合が約44%となっている。	・ドリル学習に根気強く取り組み、基礎的・基本的な学力を伸ばすことができる。 ・言葉の意味や文章表現を理解し、活用することができる。 ・読書に親しみ、読書を通じて想像したり、知識を深めたりすることができる。	・書く活動の充実やタブレット端末の活用を通して基礎的・基本的な学習の習得を図る。また、個に応じた適切な支援を行う。 ・正しい言語活動が行えるよう、各教科の「学習言語」の意味を理解して使えるようにする。 ・各学年に応じた読書冊数を設定し、おすすめの本の紹介や読み聞かせを通して、読書に親しむことができるようにする。	・読書に親しめる教室環境整備やママ司書の活用、雨天時の図書館利用等、読書活動を促進する取組を行う。 ・各学年、月一回、図書室で読書をする時間を設ける。	・進んで読書をしている児童の割合は、約54%で、前年度より10%増加した。 ・月1回、図書室で読書をする時間を設けることで読書を楽しむ児童が増えた。一方行事や学習等で読書の時間を確保できない学年もあった。 ・ドリル学習やタブレット端末の活用を通して基礎的な力を伸ばしていくことができた。	・年度初めに図書室利用の共通理解を図り、全学年同一歩調で読書の時間を設けるようにする。 ・学年に応じた内容や長さの本に親しめるように指導していく。 ・タブレット端末をより有効活用し、効率よく学習をさせていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合いの中で、友達の意見と自分の意見を比較したり、質問したりして聞くことができる。 ●自分の考えをノートにまとめたり、自分の意見を発表したりすることに苦手意識をもっている児童がいる。	・学んだことを適切な表現方法を用いて表現することができる。 ・授業での思考の過程を振り返ることで、自己の学びを自覚することができる。 ・自分の考えや根拠を明らかにして論理的に説明することができる。	・児童が学んだことや感じたことを表現する時間を確保し、共有しながら学びを深める。 ・対話的な学びの深化を図るため、話の「型」を示したり、タブレット端末等を活用したりして、友達の意見と比較させながら聞かせる。 ・各教科で書く活動を多く取り入れ、「書く力」を伸ばすための指導方法を工夫する。	・自分の考えや思い、根拠を明らかにした発表ができるよう、書く活動を増やし、自信をもって発表させる機会を設ける。	・話し合い活動や発表会を通して、自分の思いや考えを表現していくことができた。 ・思いや考えを伝えるための語彙が乏しく、十分伝えられないこともあった。 ・各教科でのタブレット端末の活用は、書く力や学習意欲を高める一助となった。	・聞き手を意識した話し方や表現を練習する機会を設け、相手に分かりやすく説得力のある伝え方ができるよう工夫する。 ・タブレット端末の具体的な実践例を共有し、活用の幅を広げる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に対してまじめに取り組む児童が多い。 ○タブレット端末の活用は、児童の意欲や学習の定着につながっている。 ●家庭学習の時間や学習内容に個人差があり、不得意な学習内容を克服するために計画を立て、取り組むまでには至っていない。	・各教科において授業のめあてや課題を把握し、主体的に学習に取り組むことができる。 ・学習過程を自己評価し、自分自身の課題解決に向けた学習に取り組むことができる。 ・自主学習の時間を設定し、自己の課題に応じて学習に取り組むことができる。	・朝の学力アップタイム等で、タブレット端末の技能習得を図る時間を設けたり、学級の実態に合わせた学習内容に取り組ませたりして児童の主体的な学びの態度の育成につなげる。 ・授業のユニバーサルデザイン化を図り、児童が「分かる」と感じる授業づくりに努める。 ・「家庭学習の手引き」をもとに家庭での学習の方法を指導し、自己の課題に対して継続して学習に取り組む意識を高める。	・学年に応じた自主学習ノートの活用を紹介し、個人に合わせた主体的な学びを充実させる。 ・学力アップの時間を増やし、落ち着いて取り組むようにする。 ・学習に関する課題を取り上げたプレゼンテーションを作り、家庭学習の具体的な取り組み方を示す。	・朝の活動でキーボードの基本操作をスムーズステップで行うことで上達が見られた。 ・タブレット端末やICT機器を活用することで、学習内容の理解や定着につながった。 ・自分の興味関心や課題克服のために自主ノートを積極的に使う児童が増え、主体的に学習できるようになってきた。一方、家庭学習の取り組み方に課題が残る学年もあり、継続した指導が必要だった。	・朝の活動では、学力アップの時間を増やし、落ち着いた雰囲気づくりにつなげる。 ・手本になる自主学習ノートを掲示し、学習方法を参考にさせる。 ・自主学習ノートの活用では、型を示すなど、個人に合わせた活用の方法を指導する。

令和5年度 学力向上ロードマップ

